



おお くて

おお い

大湫宿 ~ 大井宿

約 13.7 km

歩き旅

中山道ぎふ17宿とは?

江戸時代に整備された五街道の一つである中山道は、江戸と京都を結ぶ重要な街道で、全長135里32丁(約534km)に69の宿場が置かれました。そのうちの17宿、126.5kmが岐阜県のみを東西に横断しており、今も往時の面影を色濃く残しています。その土地の歴史や文化、隠れた魅力の発見を楽しむ街道観光は岐阜県の誇るべき観光資源であるとして、平成25年2月に「岐阜の宝もの」に認定されました。

大湫宿

大湫宿は、「大久手宿」とも書かれ、江戸から数えて47番目の宿となります。湫とは沼地や湿地帯を表す言葉で、峠に挟まれた低い場所で水が溜まりやすいところを指してこの名になったようです。東の十三峠、西の琵琶峠に挟まれた宿場は、国道や鉄道などの近代交通が発達しておらず、交通の不便な場所になった反面、静かで落ち着いた町並みが今も往時の姿をしのばせます。

大湫観音堂

参拝者は賽銭を投げ入れたあと、正面で拝礼、観音堂右脇の釣鐘を鳴らしてお参りできます。宿の大火で類焼し、弘化4年(1847)に再建。観音堂内の天井絵は、旧恵那郡付知町の画人三尾静によるもので恵那市指定文化財になっています。また敷地内に松尾芭蕉の句碑などもあり、見晴らしも抜群です。

中山道広重美術館

平成13年(2001)にオープンした歌川広重の版画を多数所蔵する美術館。恵那市の収集家田中春雄氏の田中コレクション『木曾海道六拾九次之内』は、毎年9月頃、1か月のみ実物展示されます。
9:30~17:00 月曜、祝翌日、年末年始休館
観覧料:企画展大人510円 小中高生無料
※一部展覧会によって観覧料が異なる場合あり

ぼたん岩

地面にある直径5mほどの大岩。ぼたんの花のようにも見えることからこの名が付けましたが、学術的にはオニオンクラック(玉ねぎのようにひび割れる)と呼ばれる貴重な岩です。



Topics

じゅうさんとうげ
十三峠
「十三峠におまげが七つ」と言われ、アップダウンが20以上ある中山道の難所のひとつ。坂には様々な名前が付けられています。江戸時代に整備された街道のため当時の水飲み場や休憩場所(立場)なども頻りに現れます。現代的なものがほとんど排除されているので、山道には自販機もコンビニもありません。町角にもほとんどお店などはないので、歩く前には飲み物や軽食などを準備しておくといでしょう。

大井宿

恵那駅前やや北東、大井橋を渡った辺りから上横橋辺りまで、横町・本町・堅町・茶屋町・橋場町の5つの町からなる全長710mの大井宿。本陣は戦後すぐ火災に遭い、立派な正門と庭園あたりが残るのみ、脇本陣も残っていませんが、2つの大井村庄屋の屋敷は健在、そのひとつは中山道ひし屋資料館として、当時の様子そのまま見学できます。天保14年(1843)で本陣、脇本陣に旅籠41軒、家数110軒という資料が残っています。